

こくりにゅうだよ



大阪府立池田高等学校 2年 藤田 将史
「秋で思いつくものを書いてみました。」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなか国際交流センターで開催します。

多文化フェスティバル

11月17日 (土)

10:30~15:00

外国につながる子どもたちのステージ発表、
世界のこぼれやあそびの体験、ビンゴ大会など。

場所:とよなか国際交流センター および
すてっぷホール

対象:外国につながる人のある人や国際
教育に関わっている人

参加費:無料(昼食子ども100円、おとな500円)

外国籍(ルーツ)教員研究会によるシンポジウム

公立学校の外国籍教員

一歴史的経緯と諸外国事例の交差から一

12月2日(日) 13:00~17:00

公立学校の教員採用の門戸は、外国籍にも開かれています。

しかし、合格しても正式な「教諭」ではなく、「期限を付さない常勤講師」です。今回のシンポでは、その歴史的経緯や現状を知り、なぜ外国籍教員は、「教諭」ではなく「常勤講師」なのかを考えます。

参加費:無料(要申込・先着90名)

問合せ:gaikokuroots@gmail.com



INTERNATIONAL FESTIVAL 2018 POTLUCK PARTY @atoms

10月7日（日）、すてっぷホールにて「インターナショナルフェスティバル～ポットラックパーティ2018」が開催され、普段センターを利用する外国人や家族、ボランティアなど130人が集い、交流を深めました。各国のお料理あり、ダンスあり、ゲームありで、楽しくあっという間の3時間半でした。以下、多言語スタッフ（中国語）兼相談事業コーディネーターのジャ・チンからの報告です。

「今回のパーティーはセンターの多言語スタッフたちが初めて企画したイベントです。当日は天気も含めて、色々心配しましたが、予想以上の大成功でした。たくさんの人がたくさんの料理を持って来られ、とても盛り上がりました。来てくれた人からは、“子どもが他の国の人と話ができて良い経験ができました。連れて来てよかったです”、“世界各地のごちそうを食べられ大満足です”、“6月の地震以来 初めてこんなに楽しくできました、災害に対する恐怖感が和らいだ気がします”などなど、たくさん喜びの声が寄せられました。最後に参加者全員が踊り、皆が一丸になり、世界はひとつになりました。日本人のボランティアと外国人との絆が深まっています。正直言うと、疲れましたが、でも嬉しいです。又こんなイベントをやりたいです。」



ご飯を食べながら
交流しました！

美味しそうな各国の料理



ペルーのマリネッラは
会場からの歓声も



各国に関する〇×クイズ！



最後はみんなでダンス！

9月29日（土）高校生災害時ボランティア講習会 レポート

この6月に大阪府北部地震、7月に西日本豪雨、9月は台風21号などと連続して起きた災害に、多くの留学生や地域に在住する外国人は大きな戸惑いと恐怖に襲われました。

そこで、協会は豊中市と大阪大学国際公共政策研究科グローバルリスクソリューションズセンターとの共催で、「外国人のための防災フェア」（10/20）を開催しました（報告は次号に掲載します）。

この防災フェアに先立ち、地域の高校生を対象に「災害時のボランティア講習会」を実施し、5人が参加しました。大阪大学の塚本俊也先生から、世界の災害やボランティアの要件やなすべきことなどの基礎知識について学びました。参加者は初めてボランティアの体験ということで少し緊張気味でしたが、講習会終了時には笑顔でボランティアをしようと思った気持ちを語ってくれました。そして、10月20日の「外国人のための防災フェア」で活躍することを誓いながら、講習会の修了証を受け取り記念写真を撮りました。



「苦海浄土」 石牟礼 道子著／講談社文庫（2004年）

この本は、水俣病についての本です。一昔前の公害の告発本のたぐいかな、と思って敬遠していましたが、読んでみると、もしも「魂が揺さぶられる」というようなことがあるならば、この本を読んだ時のことを言うのだと思いました。で、どこがいいのか？

何よりも、水俣病の患者さんやその家族に対する作者の眼差しの温かさです。このことをさらに言えば、この本の作者は、患者さんたちの心の井戸の奥の奥まで降りていって一体化して、その声にならない声の語り部となっている、そんな感じです。作者自身こう言っているそうです。「あの人が心の中で言っていることを文字にすると、ああなるんだもの。」ここに、「弱者に寄り添う」ということを突き詰めた一つの姿があるように思いました。

おまけに私の好きな文章を一つ引用します。「沖のうつくしか潮で炊いた米の飯の、どげんうまかもんか、あねさんあんた食うたことのあるかな。そりゃ、うもうござすばい」美味しそうでしょ！

（協会理事長・松本康之）

＼Youは何しに国流へ？／ 第13回 センターで活動している人を紹介します☆

とよなかにほんで「金あさ」・「千里にほんで」で活動されている堤 律子さん。今回は「金あさ」についてお話をうかがいました。

1999年から2002年までタイのバンコクに滞在し、タイの方に色々なサポートを受けました。その時の経験から、日本に帰国したら外国の人の役に立つことをしたいと考えていました。2012年の夏に大阪市主催のボランティア養成講座を受けましたが、豊中に住んでいるなら「とよなか国流」に行ってみたら？という大阪市の方の勧めもあり、ボランティア養成講座を受けて活動をはじめました。「金あさ」で活動を始めたのはその年の秋からです。

ボランティアを始めた当初は、日本語で困っている外国人の方を「助けてあげたい」という気持ちがありましたが、それは想いの押し付けになっていたのではと思います。

現在は同じ目線で一緒に学ぶ、「お互いさま」の気持ちで取り組んでいます。「サポート」という言葉は同じでも、気持ちの上では大きな変化でした。

活動後にボランティア仲間とランチに行くのも楽しみの一つです。「金あさ」で同じ想いをもつ多くの仲間ができました。学習者の方にもまず自分の合う人を見つけて、徐々に交流の輪を広げていってもらえる活動になっていけばと思います。



とよなかにほんで金あさ
ボランティア
つつみ りつこ
堤 律子さん



コラム 「蘇州的随記☆仰望天空(蘇州での徒然日記☆空を見上げて)」(第2回) 柳本 美鈴

ごども母語・スペイン語アシスタントの柳本美鈴さんが、2018年4月より中国に滞在されています。現地に住んでいるからこそ感じること・ものがたくさん詰まった、美鈴さんからの生活便りをどうぞ。

タージャーハオ

大家好(みなさん、こんにちは)！

日本は少しずつ秋が深まってきている頃でしょうか？こちら中国・蘇州市も、朝晩は肌寒くなり、道を歩いていると、キンモクセイの良い香りがしてきます。

さて今回は、ちょっと難しいお金の話です。「中国は世界一のキャッシュレス先進国だ」という話を以前聞いたことがありましたが、本当にその通り。想像以上で驚いています。

中国では(おそらく都市部を中心に)、スマホを使った電子決済が急速に普及しています。つまり、多くの人が携帯電話を使ってさまざまな支払いをしている、ということです。有名なのは、「We Chat Pay(微信・ウェイシン)」・「Alipay(支付宝・アリペイ)」の二種類で、このアプリをスマホに入れておけば、大抵の場所で支払いをすることができます。アプリを開き、自分のQRコードを読み取ってもらうか、店のQRコードを自分が読み取り、金額を打ち込んで承認すれば支払いが完了。レストランのテーブルにあるQRコードを読み取って、その画面からメニューの注文・支払いをするお店もあります。

私の住んでいる所では、スーパーでの買い物はもちろん、小さな露店や市場などでもこの電子決済を推奨しています。現金を使わずに生活ができるので、財布は持たず、携帯だけを持って出かける人もいるくらいです。

「We Chat Pay(微信)」は、日本の「LINE」と同じように、無料でメッセージ交換や通話ができるアプリなのですが、そこに送金機能も付いているので、友人同士のお金のやり取りも可能。友だち数人とごはんを食べに行っても、誰かが代表で支払いをした後、自分の代金を友だちに送金すれば良いので、小銭がなくてもその場で明細会計！というわけです。

この、現金要らずの生活は、確かなかなか便利！！ただ、スマホの紛失や個人情報の流出など、便利の裏側には危険も潜んでいる・・・ということを忘れずにいたいと思います。

【イベント告知】 多文化フェスティバルを開催します

11月17日(土)10時30分～15時まで、とよなか国際交流センター(エトレ豊中6階)とすてっぷホール(エトレ豊中5階)を会場に、多文化フェスティバルを開催します！外国にルーツをもつ子ども同士がつながり、国際教育に関心のある先生方を応援する場づくりを目的に始まった本イベントも、今年度で14回目を迎えます。

今回の多文化フェスティバルは、課題をクリアしたり謎を解いたりしながら、いろいろなブースを回って世界の遊びや言葉を体験する、ミッション型のイベントになっています。多文化なお料理、お菓子も味わうことが出来ます。最後にはビンゴ大会も開催予定！みなさん、ぜひお越しください。

日時:2018年11月17日(土)10:30～15:00

参加費:無料(昼食子ども100円・おとな500円)

場所:すてっぷホール および とよなか国際交流センター



待ってるよ～！



登録グループの活動紹介



No.13

サワディータイ

——インタビュアー：(以下、——)この活動はいつからされているのですか？

ローリー)11年前、2007年ですね。他団体の企画でタイ語を学ぶプロジェクトがあり、その講師をしていました。プロジェクトの期間が2年と決まっていたのですが、終わってからもタイについて学び続けたいという要望が多かったので、自分でグループを立ち上げました。

タイ語の勉強がメインですが、より深くタイについて知ってもらうためにみんなで料理をしたり、みんなでタイへ旅行にも行きました。

堀田)このメンバーで、タイ語を学んで現地の学校で働いている人もいます。現地で選択制の日本語クラスの教師をしているのですが、会いに行こうという計画を立てまして。旅行というよりは研修のような気持ちでもありました。

川田) 私達も、「せっかく行くんだから」とタイの学生に日本の文化を紹介したり、タイでも人気になった日本のアイドルの振り付けを披露しました。一生懸命ホテルでも練習したんですよ(笑)

——普段の語学を学ぶ活動から、かなり発展していますよね。毎年秋に開催している「とよなか国際交流フェスタ」でも毎年料理の出店をしていただいていますし。

ローリー)自分が勉強するだけでなく、自分が感じたものを誰かに紹介するというのも大事。だからこの間は、大阪のハロハロワールドというイベントでも1日限定講師として参加してきました。子どもが対象なので、素朴な疑問と興味を持ってくれるし、こちらが「教える」というよりも「体験する」に近いですね。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。今回はサワディータイで活動する皆さんに、活動内容や国際交流への思いを伺いました。

川田) そういう活動なので、メンバー同士も個人的に仲良くなって、今はお茶したい時のために毎週教室にポットも置いてます(笑)

——新メンバーを募集中とのことです。最後に一言アピールどうぞ！！

ローリー)私は教えるのも好きだけど、おしゃべりをしたりコミュニケーションが好きなんです。だからどんな人がきても歓迎したいと思っています。

大人になってから新しく勉強することは難しいと思われるけど、勉強はいつからでも始められる。タイ語も日本語とは全く違いますが、皆さん文字が読めるようになりましたし、それによって世界がひろがりますよね。そんな経験が得られるこの活動も、きっと楽しんでもらえると思います。



【活動についての問い合わせ先】

団体名：サワディータイ

TEL：090-1740-7264

mail：chookdee2002@yahoo.co.jp (川田)

活動日時：毎週金曜日 14:00～16:00

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第115号(2018年11月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトレ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで・水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail:atoms@a.zaq.jp

WEB:http://www.a-atoms.info/

多言語情報も
配信しています！



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

